

国際消防救助隊連携訓練の開催

参事官室

国際消防救助隊（IRT）は、「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」に基づく国際緊急援助隊（JDR）・救助チームの一員として海外の大規模災害に対し派遣され、我が国の消防が培ってきた高度な救助技術と能力を発揮し、我が国の国際緊急援助に貢献しています。その派遣回数は、昭和61年の発足以来、22回を数え、直近では、令和5年2月にトルコ共和国南東部へ、大規模な地震による被害への支援のため派遣されています。

消防庁では、あらかじめ77消防本部599名の隊員を国際消防救助隊員として登録し、被災地で円滑に救助活動を実施するための準備体制を構築しています。

そして、海外の被災地において、国際的なガイドラインに準拠した適切かつ安全な捜索・救助活動を実施するため、平成24年度から「国際消防救助隊連携訓練」を開催し、国際消防救助隊の更なる活動能力の充実を図っています。

今年度は、福岡市消防局及び東京消防庁の協力の下、連携訓練を開催しました。

<福岡市消防局>

- ・実施日 令和7年1月22日（水）～24日（金）
- ・場 所 福岡市消防学校
- ・参加隊員 38登録消防本部 40名
- ・訓練指導員 18名

IRT指導員

- JDR・救助チーム技術検討員
- JDR・救助チームハンドラー登録者（警備犬含む）
- JDR・救助チーム医療班登録者
- JDR・救助チーム構造評価専門家登録者

福岡市消防学校で実施した連携訓練では、38登録消防本部から40名の登録隊員が参加し、ブリーチング（鉄筋コンクリート等の破壊技術）、ショアリング（倒壊建物等における木材を活用した安定化技術）及びロープレスキュー（倒壊建物等におけるロープを活用した救助技術）の基本訓練に加え、複合的想定訓練を実施しました。

複合的想定訓練では、活動時間が6時間と設定された中、様々な手技を実施するだけでなく、他機能（医療班、構造評価及びハンドラー）と密に連携し、活動を行いました。6時間の制限時間内に完了できなかった部分については、翌日、他の中隊が引き継いで活動を

行うなど、中隊間のローテーションも意識された継続性のある想定訓練を実施しました。



開会式



ショアリング



ロープレスキュー



複合型想定訓練

<東京消防庁>

- ・実施日 令和7年2月5日(水)～7日(金)
- ・場所 東京消防庁 奥多摩総合防災訓練施設
(第九消防方面本部消防救助機動部隊)
- ・参加隊員 39登録消防本部 50名
- ・訓練指導員 23名

IRT指導員

- JDR・救助チーム技術検討員
- JDR・救助チームハンドラー登録者(警備犬含む)
- JDR・救助チーム医療班登録者
- JDR・救助チーム構造評価専門家登録者

奥多摩総合防災訓練施設で実施した連携訓練では、39登録本部から50名の登録隊員が参加し、資機材取扱・資機材選定訓練、ブリーチング(鉄筋コンクリート等の破壊技術)及びショアリング(倒壊建物等における木材を活用した安定化技術)の基本訓練に加え、暗所における想定訓練及び複合型想定訓練を実施しました。

資機材選定訓練では、国際緊急援助隊のロジスティックを担うJICAから、実際に被災国に搬送するために梱包された派遣用資機材を借用し、搜索救助現場での活動順序を考慮に入れた上で、資機材の優先順位付けをし、搬送車両に積載する実践さながらの訓練を行いました。また、夜間での活動を想定した暗所における訓練では、隊員間や他機能との連携を密にすることの重要性をより認識する機会となりました。



複合型想定訓練

両会場とも2日半という短い訓練期間ではあったものの、実派遣さながらの過酷な条件下での訓練を行いました。訓練参加隊員は高い集中力を継続し、訓練に取り組みました。

消防庁では、今後の派遣要請に備えるため、引き続き、国際消防救助隊員を対象として、国際基準に沿った救助技術や知識等を取得するための連携訓練等を実施し、各隊員が海外の被災地において効果的な救助活動を行えるよう能力強化を行ってまいります。

最後に、本訓練の開催に先立ち、長期間における調整等、多大なるご尽力をいただいた福岡市消防局及び東京消防庁に対しまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



資機材選定訓練



梁破壊



福岡会場



東京会場



暗所における想定訓練

問合せ先

消防庁国民保護・防災部 参事官付 廣田、張替
TEL: 03-5253-7507